# ホンダ F200M

らくらくミニ・ティラー

ハウス用 こまめ

HONDA

# 取扱説明書

お買いあげありがとうございました。
お買いあげいただきましたF200Mをご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

# お買いあげありがとうございました

お買いあげいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、下記の弊社**ご相談窓口**にお気軽にお申しつけください。

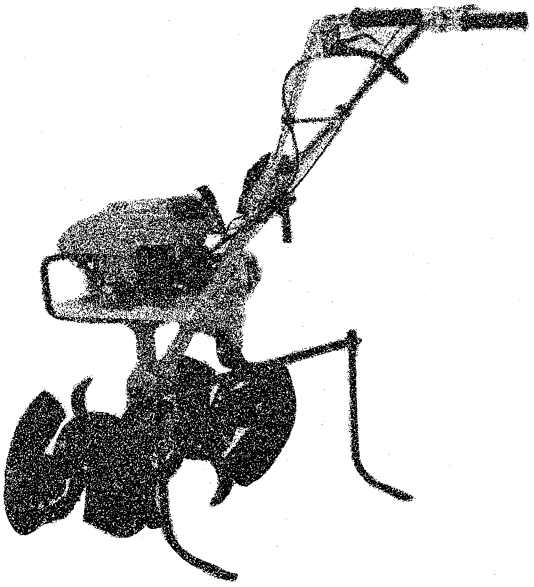
**ご相談窓口**

| 名　　称 | 電話番号 | 郵便番号 | 所　在　地 |
|---|---|---|---|
| 本田技研工業株式会社<br>北海道支店サービス係〈北海道全域〉 | 011(251)9231 | 060 | 北海道札幌市中央区北一条西7－1 |
| 本田技研工業株式会社<br>仙台支店サービス課〈東北6県〉 | 0222(25)6171 | 980 | 宮城県仙台市土樋1－11－2 |
| 本田技研工業株式会社<br>東京支店サービス課〈関東、甲信越地方〉 | 03 (498)3251 | 150 | 東京都渋谷区神宮前6丁目27番8号 |
| 本田技研工業株式会社<br>名古屋支店サービス課〈三重、東海、北陸地方〉 | 052(261)2671 | 460 | 愛知県名古屋市中区千代田1－7－2 |
| 本田技研工業株式会社<br>大阪支店サービス課<br>〈近畿(三重除く)、中国(山口除く)、四国地方〉 | 06 (313)1171 | 530 | 大阪府大阪市北区南扇町7－31 |
| 本田技研工業株式会社<br>九州支店サービス課〈九州全域と山口〉 | 092(291)5131 | 812 | 福岡県福岡市博多区祇園町8－7 |
| 沖縄サービスセンター〈沖縄県〉 | 0988(77)3097 | 901－21 | 沖縄県浦添市字仲間仙原1506<br>ホンダSF沖縄(沖縄ホンダモーター内) |

電話番号、住所などは変更になることがあります。

ホンダF200Mは、小型、軽量で汎用性に富んだティラーです。安全、快適にお使いいただくために正しい取扱いをしなければなりません。ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などにより写真、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。



**トレーラー走行はできません**

（小型特殊自動車の認定を受けていません。）

# 目　次


安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 8

エンジン スイッチ ツマミ …… 9
エンジン回転調整レバー …… 9
クラッチ レバー …… 10
始動グリップ …… 11
チョーク レバー …… 11
作業機取付部 …… 12
かくはんローター …… 12
ハンドル高さ調整レバー …… 13
ハンドル角度調整ツマミ …… 13

エンジンをかける前に点検しましょう …… 14

ガソリンの点検 …… 14
エンジンオイルの点検 …… 15
空気清浄器(エア クリーナ)の点検 …… 16
変速機オイルの点検 …… 16

エンジンのかけかた …… 17

運転操作のしかた …… 20

1．クラッチ レバー …… 20
2．エンジン回転調整レバー …… 20

エンジンのとめかた …… 21

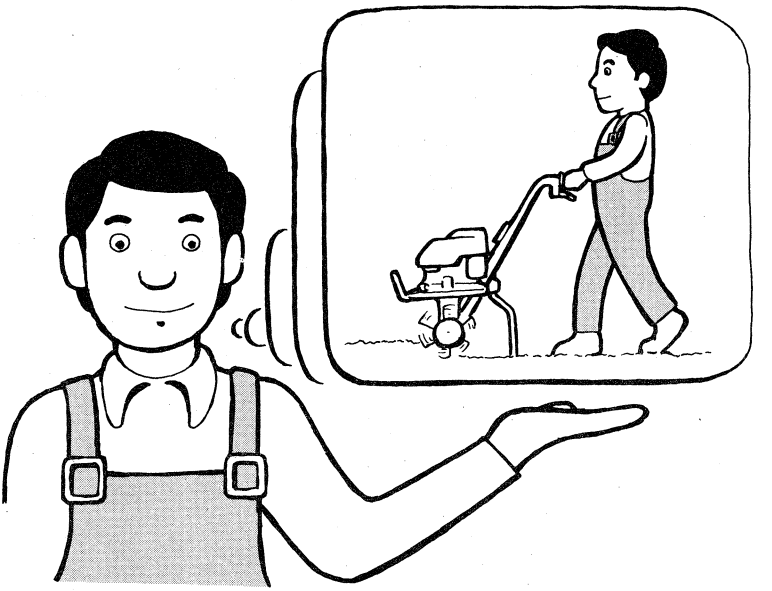
定期手入れを行ないましょう …… 23

日常点検 …… 23
定期点検 …… 24

やさしい点検・整備 …… 25
携帯工具 …… 25
エンジン オイルの交換 …… 26
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃 …… 27
点火プラグの清掃、調整 …… 28
エンジン回転調整ワイヤーの調整 …… 29
クラッチ ワイヤーの調整 …… 30
長期間使用しない時の手入れ …… 31
別売部品 …… 33
故障のときは …… 34
主要諸元 …… 35
保証のご案内 …… 36

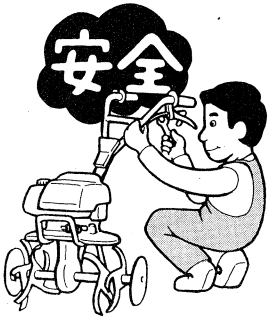
## 安全にお使いいただくために これだけはぜひまもりましょう

ティラーの取扱いは正しく、ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な農作業のために次のことを必ずおまもりください。



## ●安全のために知っておきたいこと

★日常点検、整備を忘れずに。
★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。
★子供を乗せたり、近寄らせないこと。
★工具を適切に管理し、正しく使用する。
★衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する。
★機体を持上げる時は、必ずエンジンをとめてください。








## ●作業を始める前に

★必らず点検、整備を行なう。

- 点検作業は、通行の防害及び危険等のない平担で安全な場所で行なう。
- 屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意する。

★防護装置の保全

- 防護装置は正しく取付けられているか。
- 点検、整備のため取外された防護装置は正しく復元され、確実に締付けられているか。



## ●作業中の注意

★水田等水のある場所では使用しない。
★作業中は、まわりに十分注意し、関係者以外の人を近づけない。
★一酸化炭素中毒にならないよう、ハウス内の換気を十分にしながら使用する。
★傾斜地では、転倒を防ぐため速度や旋回などに十分注意する。
★作業場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過など、転倒には十分注意する。
★作業中は、動力伝達装置や回転部に接触しないよう特に注意する。
★土塊や石などがとび散る作業においては傷害に注意する。
★ロータを4連以上装着して使用しない。変速機に負荷がかかりすぎギヤ音が大きくなります。
★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行なう。
★休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて安定した場所で確実に固定する。
★ガソリン補給時、必ずエンジン停止、火気厳禁。
・ガソリンはこぼさない。
・ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。

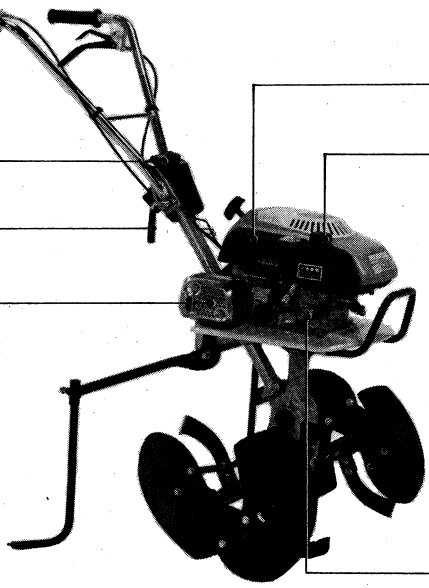


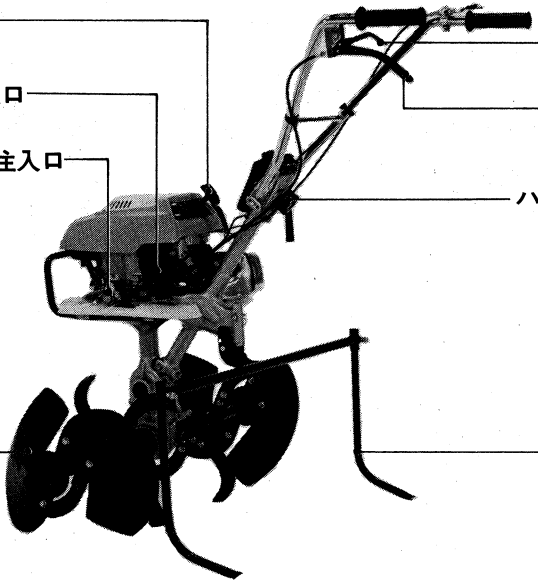



## ●作業が終ったら

★次の作業のために機械の点検、整備を行なう。
★作業機の取外しは、平担で安全な場所で行ない、後傾状態で放置しない。
★トラック等への積降し等は、燃料コックレバーを止にし、転倒や落下に注意する。
★保管は、安定した場所で安全な状態で行なう。

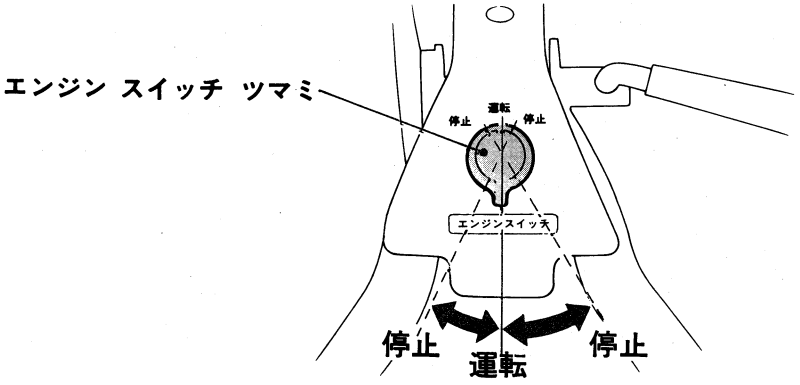
# 各部の名称と取り扱いをおぼえましょう



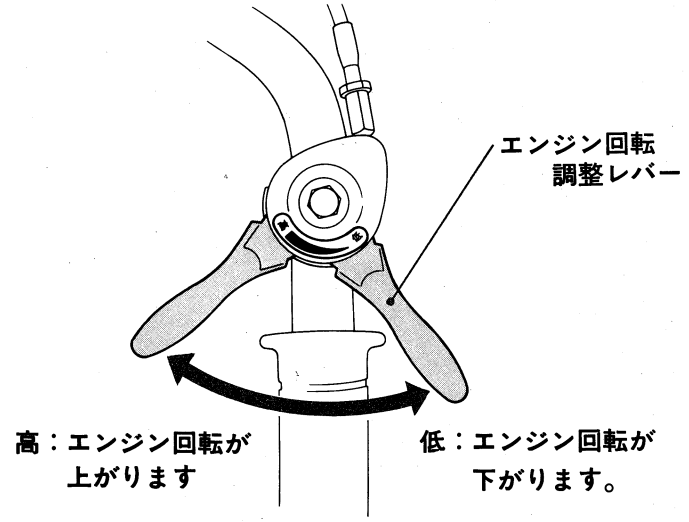
## エンジン スイッチ ツマミ

スイッチ ツマミは、エンジンの始動、停止をする時に操作します。



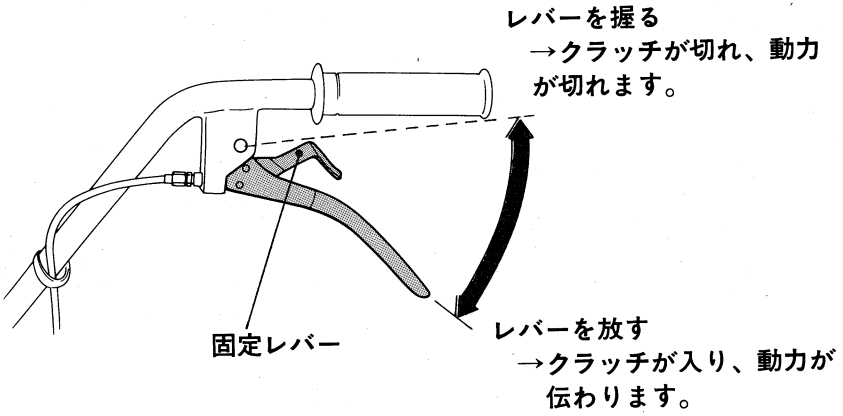

## エンジン回転調整レバー

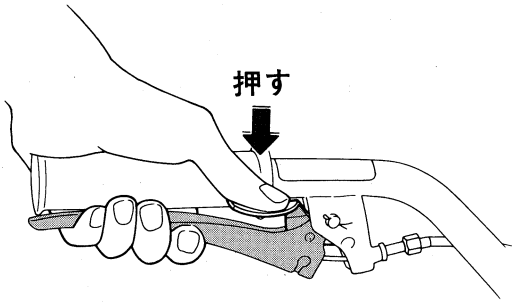
エンジン回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



## クラッチ レバー

クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。

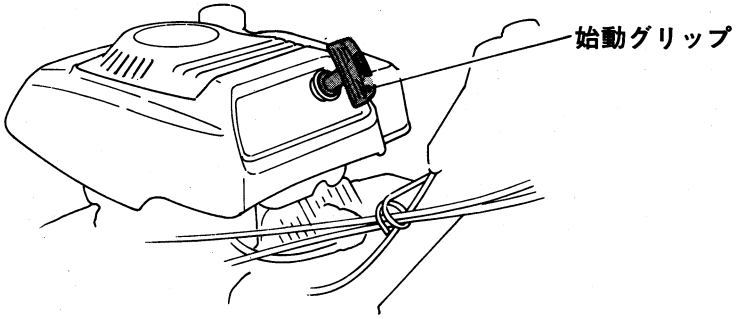



・クラッチ レバーを握ると自動的に固定レバーにより固定されます。
・解除するときは、クラッチ レバーをいったん握り、固定レバーを押します。

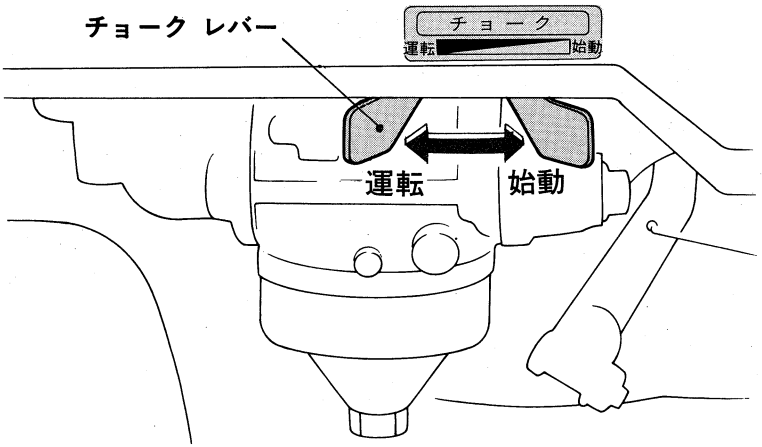
## 始動グリップ

エンジンを始動する時に操作します。



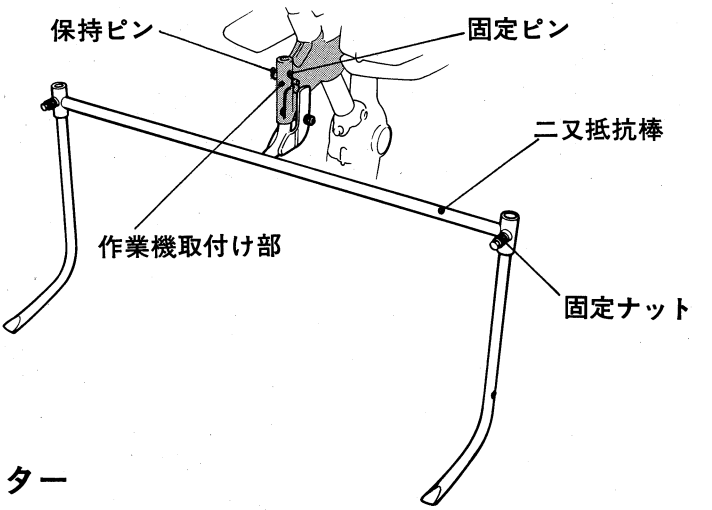

## チョーク レバー

エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。



## 作業機取付部

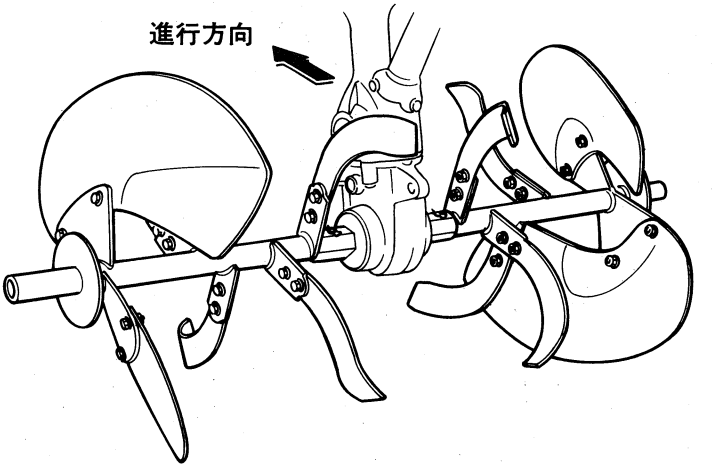
作業機（抵抗棒）を取付けるところです。
取付けは、保持ピンを差し込み、固定ピンで固定します。作業機は固定ナットをゆるめることにより高さを調節できます。




## かくはんローター

**〈取付けかた〉**

ローターは下図のように保持ピンを差し込み、固定ピンで固定します。

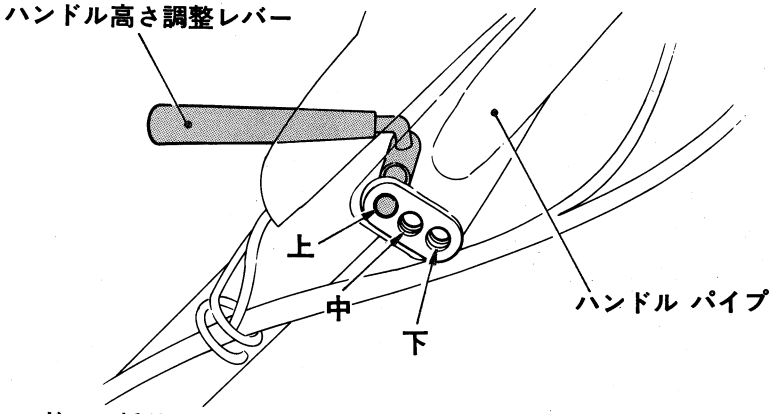


## ハンドル高さ調整レバー

ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるレバーです。

**〈調整のしかた〉**

調整レバーを回して、ハンドルパイプから外し、任意の穴へさしかえます。




**〈ハンドルの折りたたみかた〉**

ハンドルの折りたたみが出来、運搬、格納時に大変便利です。

折りたたみかたは32頁参照

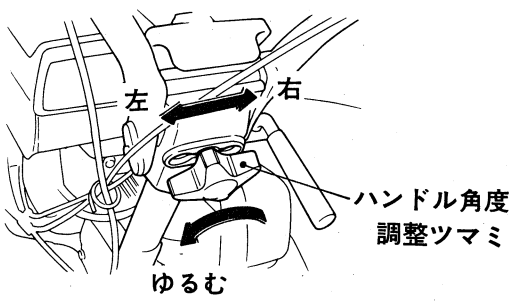
## ハンドル角度調整ツマミ

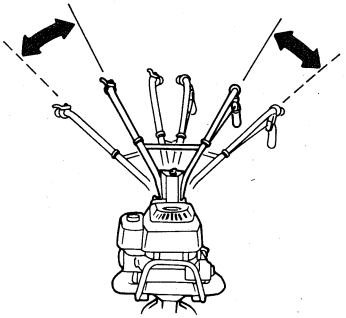
ハンドルの左右角度調整時に操作します。

**〈調整のしかた〉**

・ハンドル調整ツマミをゆるめ、左右の任意の穴に動かして行ないます。

・ハンドルは左右にスイング出来ます。



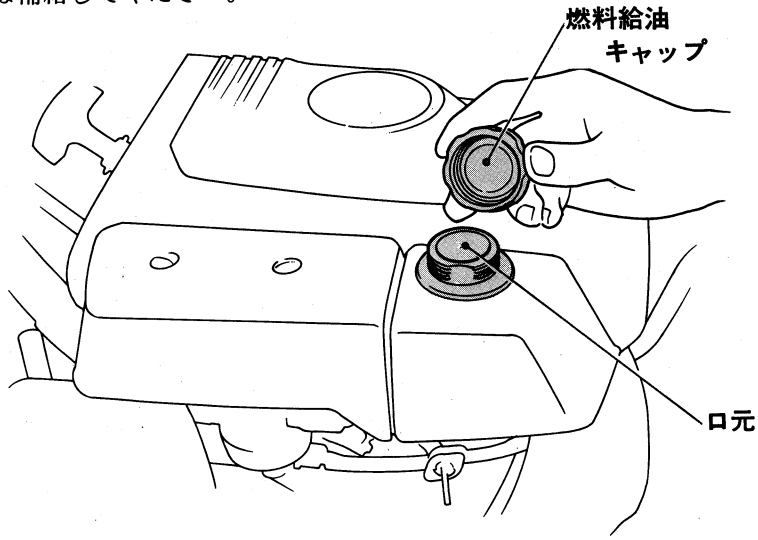
# エンジンをかける

★点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行なってください。

## ガソリンの点検

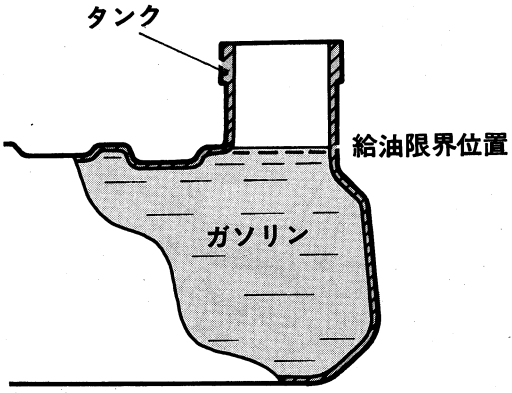
### 点検

燃料給油キャップを外し、注入口の口元より少なめにガソリンがあるか点検します。少ない場合は補給してください。




### 補給

- キャップを外し、注入口の口元より少なめに補給します。
  使用ガソリン：無鉛(レギュラ ガソリン)
  タンク容量：0.85ℓ
- 補給後、キャップを完全に締付けてください。




**注意**

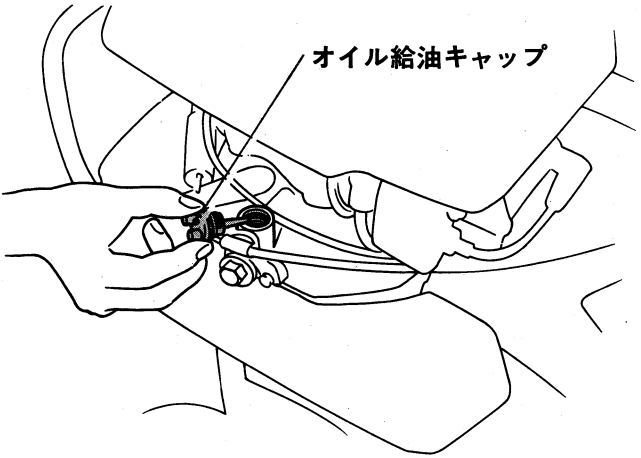
- 火気厳禁
- 必らずエンジンをとめて補給してください。
- 本機に貼られている注意ステッカーにしたがってください。

# 前に点検しましょう

## エンジンオイルの点検

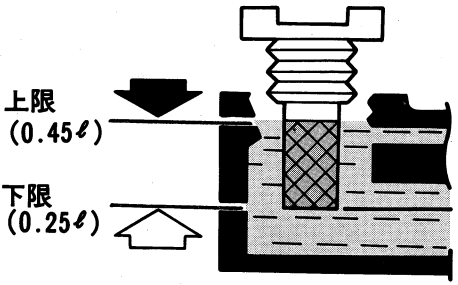
### 点検

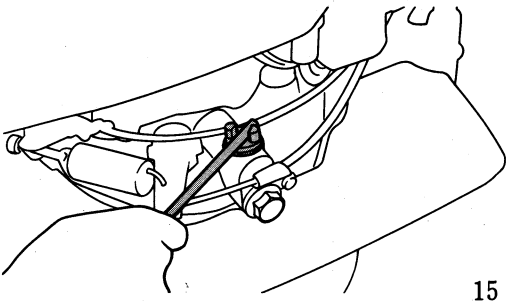
オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。油面が下限に近い時には、上限までオイルを補給してください。




### 補給

- キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。
- 指定オイル：ホンダ純正オイル　ウルトラネオ、ウルトラーU（二輪車用）ＳＡＥ10W－30またはＡＰＩ分類ＳＥ級相当のエンジンオイル。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください（交換時期、方法は26頁参照）



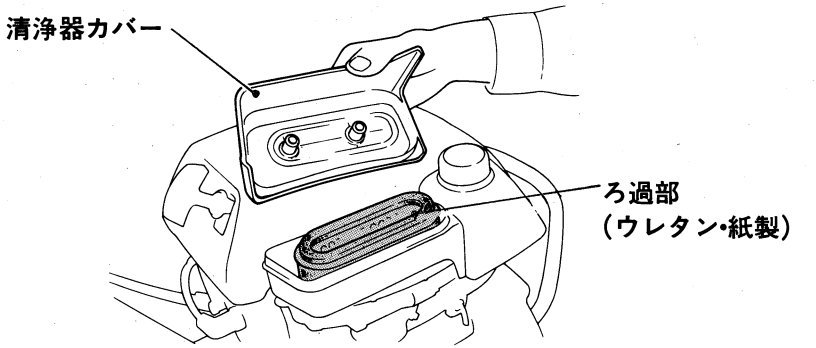



**注意**

- キャップは、ドライバー等で確実に締付けてください。
- 締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

## 空気清浄器(エア クリーナ)の点検

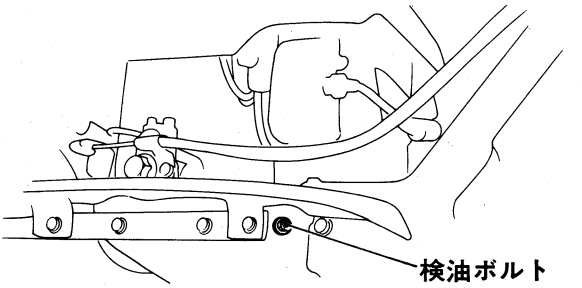
空気清浄器カバーを外し、ろ過部（ウレタン・紙製）が汚れていないか点検します。
汚れている場合は清掃してください。（清掃時期、方法は27頁参照）




## 変速機オイルの点検

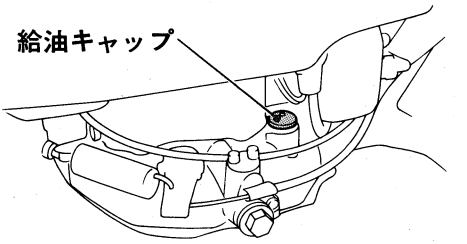
### 点検

検油ボルトを外し、オイルが流れ出てくるか点検します。
少ない場合は補給してください。




### 補給

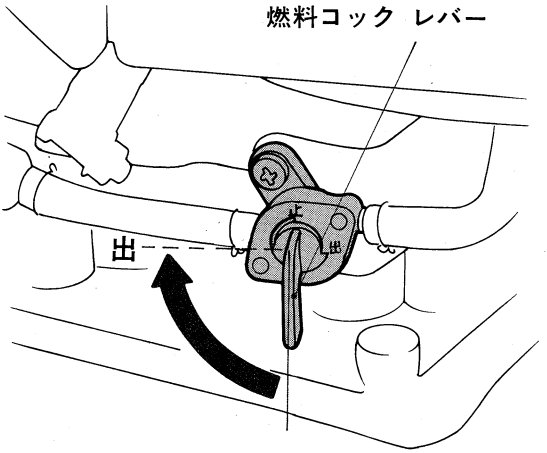
- 給油キャップを外し、新しいオイルを検油ボルトから流れ出るまで補給します。
  使用オイル：エンジンオイルと同じ。
  オイル容量：1.2ℓ
- 補給後、給油キャップを完全に取付けてください。



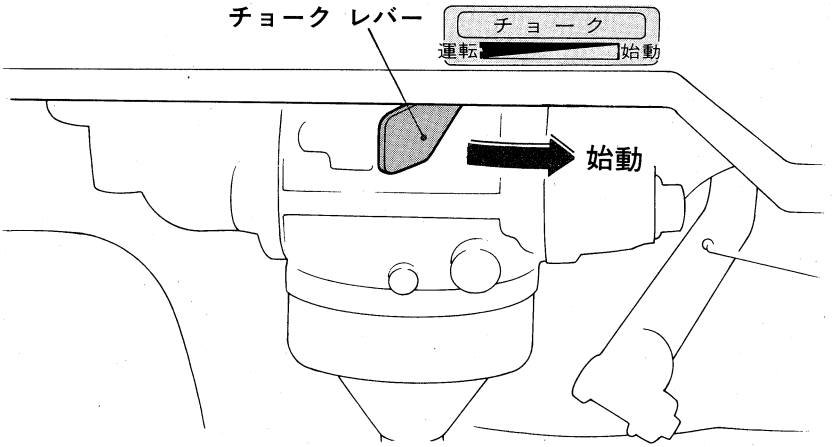
# エンジンのかけかた

**★クラッチレバーが"切"になっているか確認してからエンジンをかけてください。**

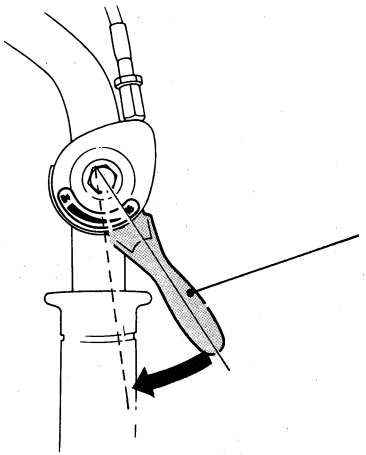
1.燃料コックレバーを**"出"**に合わせます。



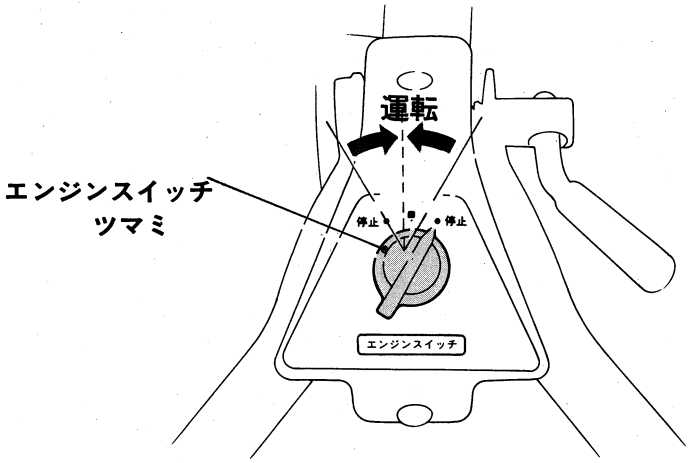

2.寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョークレバーを**"始動"**に合わせます。



3.エンジン回転調整レバーを**"高"**方向に少しまわします。

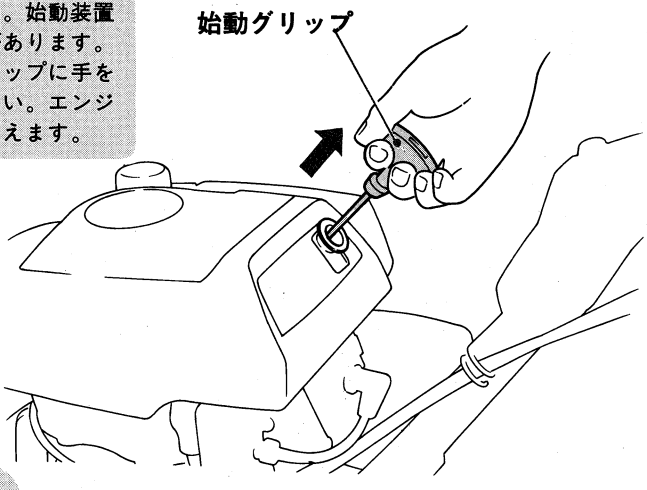



4.エンジン スイッチ ツマミを**"運転"**に合わせます。



5.始動グリップを引いて重くなる位置をさがし、勢いよく引きます。

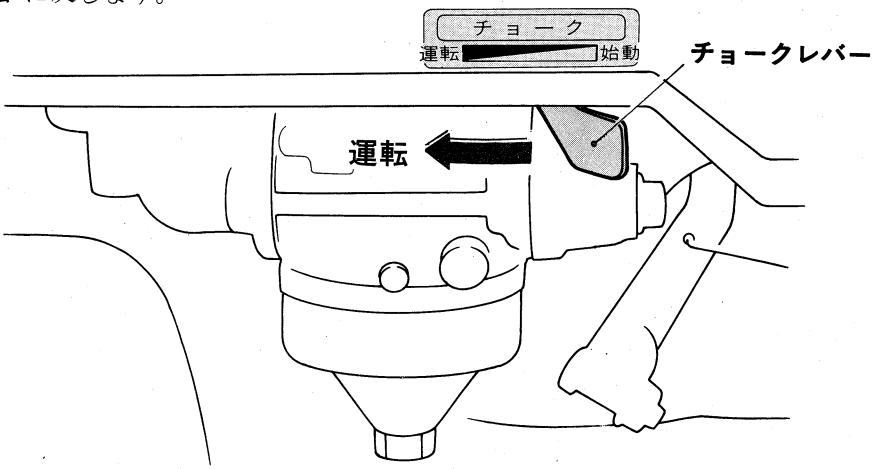
注意
- グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。




## 始　動

6.2～3分間暖機運転を行ないます。

チョーク レバーを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら**“運転”**に戻します。



# 運 転 操 作 の し か た

★安全な作業を行なうために、十分に理解して行なってください。

## 運 転

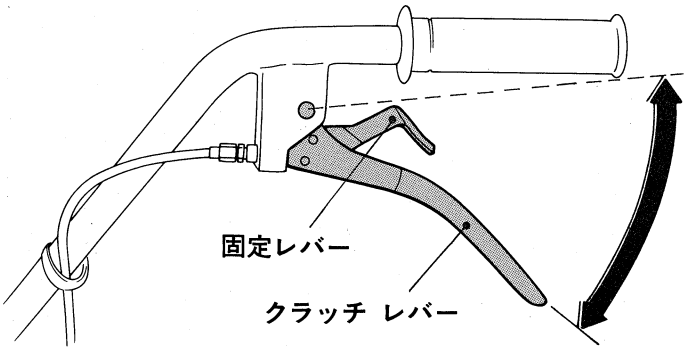
### 1.クラッチ レバー

クラッチ レバーの操作は、静か(スムーズ)に行ないます。

急激な操作を行なうと機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

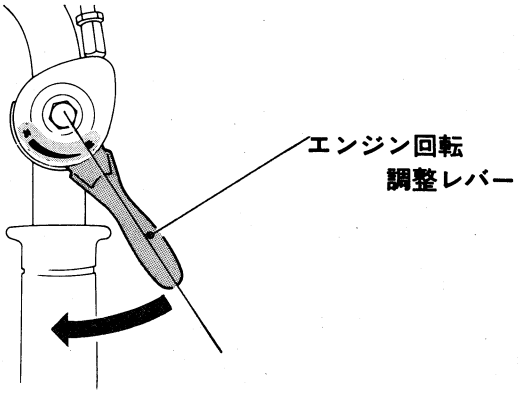
レバーを握る→クラッチ**"切"**→動力切れる。

レバーを放す→クラッチ**"入"**→動力伝わる。




### 2.エンジン回転調整レバー

レバーを**"高"**方向にまわし、エンジン回転を上げます。

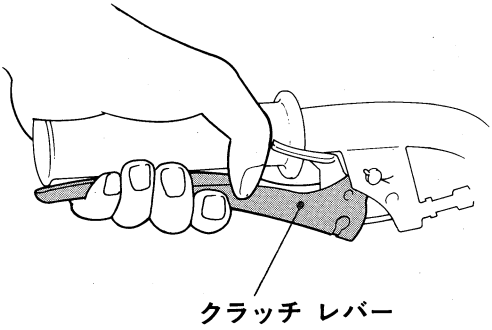



注意

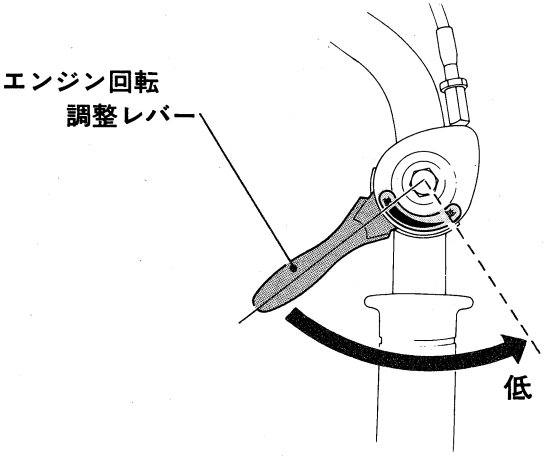
・機体を持上げる時は必ずエンジンをとめてください。
ロータが回転し、衣類等を巻込み人体に触れるおそれがあり危険です。

# エンジンのとめかた

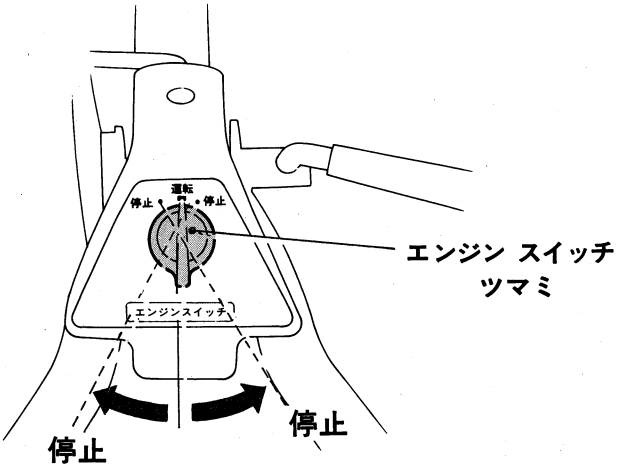
1.クラッチ レバーを**"切"**にします。



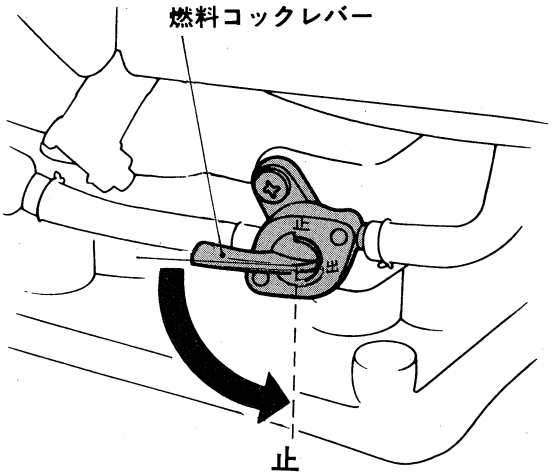

2.エンジン回転調整レバーを**"低"**の位置に戻します。



3.エンジン スイッチ ツマミを**"停止"**に合わせます。




4.燃料コック レバーを**"止"**に合わせます。

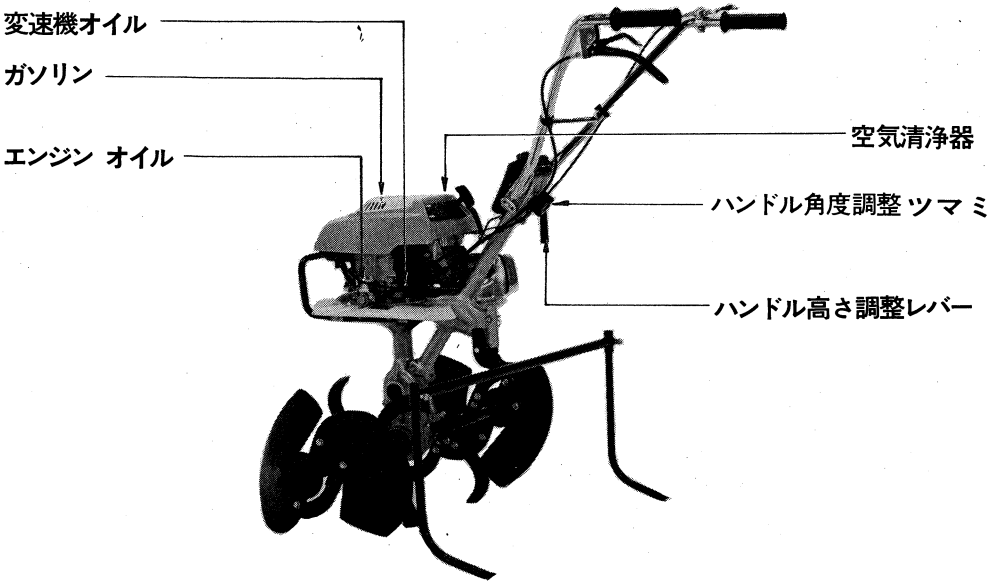


# 定期手入れを行ないましょう

**日常点検**

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行なってください。

- エンジンオイル……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- 変速機オイル……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- 空気清浄器……汚れていないか。
- ガソリン……残量
- 異常個所……前日悪かった所
- 各部の締付け……ハンドル高さ調整レバー、ハンドル角度調整レバー
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



## 定期点検

お買いあげいただきましたティラーをいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

| 点検項目＼点検時期 | | | 初回 20時間目 | 20時間運転毎 | 50時間運転毎 | 100時間運転毎 | 300時間運転毎又は1年1回 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | エンジンオイル | 点検 | | | | | |
| | | 交換 | ○ | | | ○ | |
| 注1 | 空気清浄器 | 点検 | | | | | |
| | | 清掃 | | ○ | | | |
| 注2※ | クラッチシュ | 交換 | | | | | ○ |
| | クラッチワイヤー | 調整 | ○ | | ○ | | |
| | エンジン回転調整ワイヤー | 調整 | | | | | ○ |
| | 点火プラグ | 清掃 | | | | ○ | |
| ※ | 吸入,排気弁間隙 | 調整 | | | | | ○ |
| ※ | 燃焼室 | 清掃 | | | | | ○ |
| ※ | 燃料タンク | 清掃 | | | | | ○ |
| ※ | 燃料チューブ 燃料ろ過器 | 交換 | 3年毎 | | | | |

〈注1〉土煙りの立つ作業のときは、空気清浄器の清掃は短時間（10時間または1日）で行なってください。

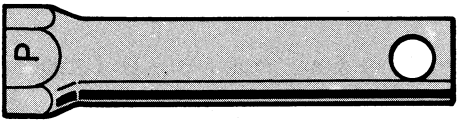
〈注2〉※印のついた項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店又は最寄りのホンダＳＦへお申しつけください。

# やさしい点検・整備

★点検・整備は平担な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行なってください。

## 携帯工具

工具は、点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。




プラグ レンチ



プラグ レンチ ハンドル

※プラグの取付け・取外し、エンジン排油ボルトの取付け・取外しに使用出来ます。

## エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

**《交換時期》**

初回：20時間目、以後：100時間運転毎

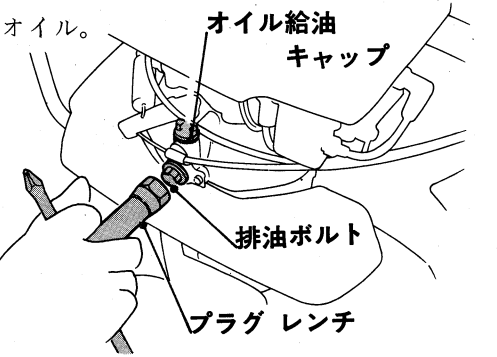
**《指定オイル》**

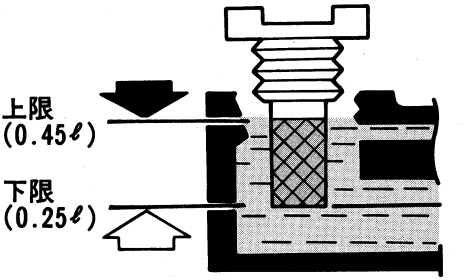
ホンダ純正オイル　ウルトラネオ、ウルトラ－U（二輪車用）ＳＡＥ10W－30またはＡＰＩ分類ＳＥ級相当のエンジンオイル。

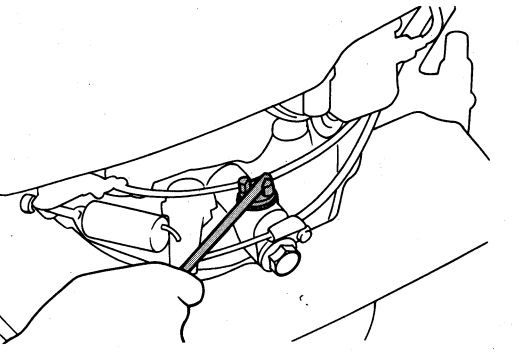
**《規定量》** 0.45ℓ

**《交換のしかた》**

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
   エンジンが暖かいときに行なうと、エンジン内に残る量が少なく早く抜けます。
2. オイルが完全に抜けたら排油ボルトを確実に締付けます。
3. エンジンオイルを給油キャップのレベルゲージで確認しながら上限まで注入します。(給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。)
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないようにドライバー等で確実に締付けます。



注意

- エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いので火傷に十分注意してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ないましょう。

## 空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

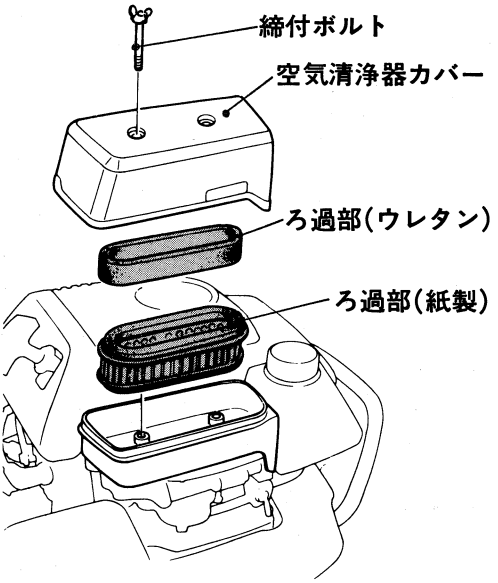
空気清浄器が目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

**《清掃時期》**

20時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間毎。

1. 締付ボルトをゆるめ、空気清浄器カバーを取外します。
2. ウレタンのろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるか又はよく絞って乾かします。オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、又は軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換するか、又は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいで洗剤をよく落します。圧縮空気を吹きつけてよく乾かしてから取付けます。




**注意**

- 空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- 空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。

## 点火プラグの清掃、調整

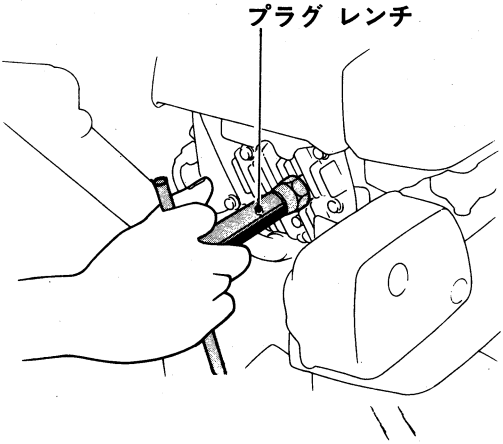
電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

**《清掃時期》**

100時間運転毎

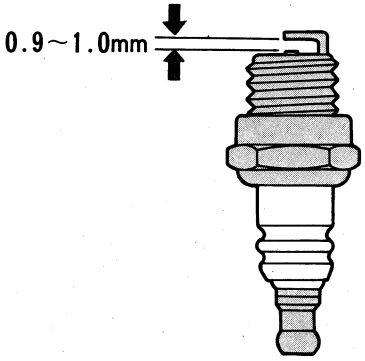
**《清　掃》**

1. プラグレンチで点火プラグを取外します。
2. プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。販売店またはホンダＳＦをご利用ください。
   - プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落してください。




**《調　整》**

- 側方電極をつめ、火花すきまを0.9～1.0㎜に調整します。




**《標準プラグ》**

ＢＰＭ4Ａ－10(ＮＧＫ)
Ｗ14ＭＰ－Ｕ10(ＮＤ)

注意

- 標準以外のプラグを使用しないでください。
- エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
- プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。

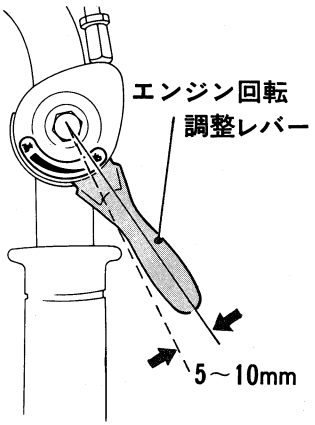
## エンジン回転調整ワイヤーの調整

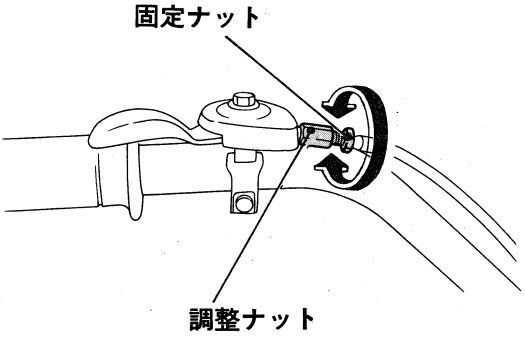
エンジン回転調整ワイヤーの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

**《調整時期》**

300時間運転毎または1年1回

1. エンジン回転調整レバーの遊びが、先端で5～10mmになるように調整します。
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行なってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



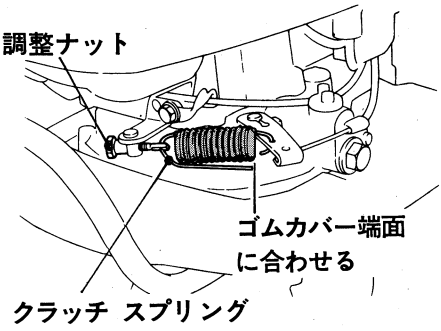
## クラッチ ワイヤーの調整

クラッチ ワイヤーの調整が完全でないとクラッチがすべります。

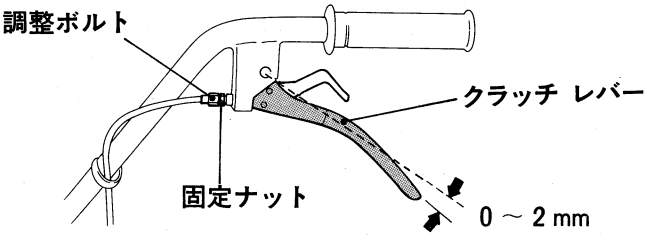
**《調整時期》**

50時間運転毎

1.クラッチ レバーを放した状態(クラッチが**"入"**の状態)で、クラッチ スプリングの取付長さを図のように調整します。
調整は調整ナットで行ないます。

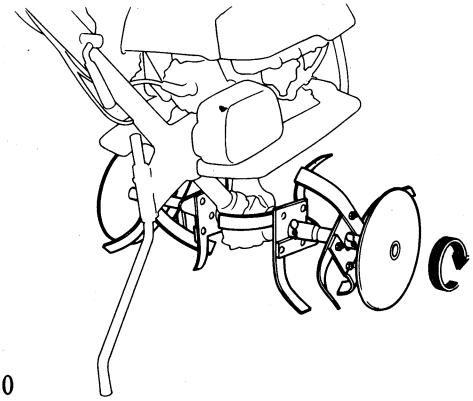



2.クラッチ レバーの遊びがレバー先端で0～2㎜になるように調整します。
調整は固定ナットをゆるめ調整ボルトで行ないます。




3.調整後、調整ナット、固定ナットを確実に締付けてください。

4.クラッチ レバーを握って固定レバーを固定した状態(クラッチが**"切"**の状態)で、車軸がフリーに回ることを確認して下さい。



注意

・クラッチ ワイヤー調整時には、必ずエンジンを止めてください。
突然車軸が回転することがあります。

# 長期間使用しない時の手入れ

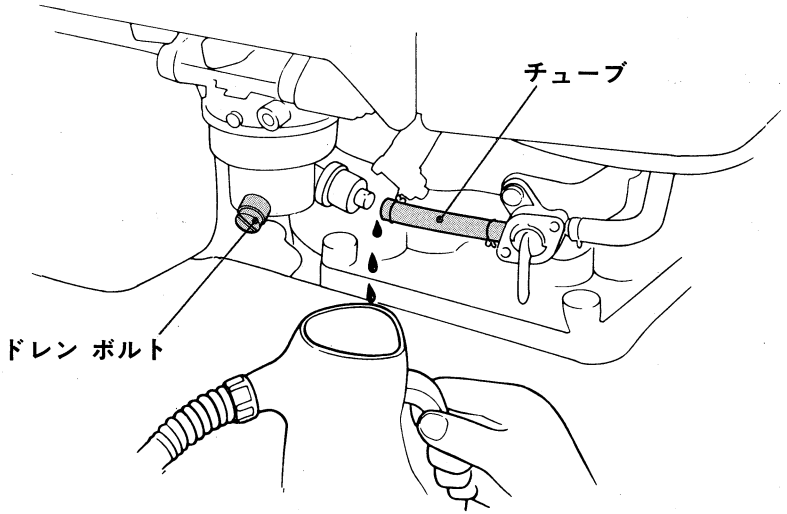
**★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行なってください。**

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグキャップをプラグから取外してください。

1 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜いてください。

**〈抜き方〉**

1.燃料コック レバーを“止”にしてください。
2.気化器側のチューブを取外してください。
3.燃料コック レバーを“出”にしてタンク内のガソリンを容器に受けてください。




4.気化器内のガソリンはドレン ボルトをゆるめ燃料を容器に受けてください。
5.完全に燃料が抜けたらチューブ、ドレン ボルトを元の状態にもどし、燃料コックレバーを“止”にしてください。

**注意**
- 燃料を抜く時は火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行なってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

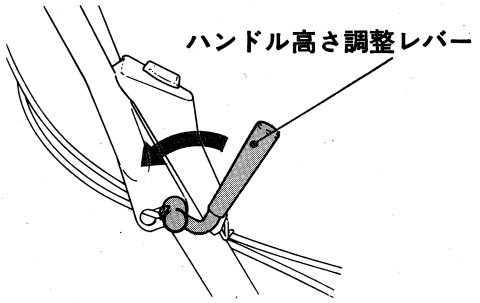
2 エンジン オイルを交換してください。（交換方法は26頁参照）
3 空気清浄器を清掃してください。（清掃方法は27頁参照）
4 始動グリップを引き重くなったところで止めてください。
5 抵抗棒を正規に取付けて、風通しの良い場所に保管してください。

注意 ・抵抗棒を外し、ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

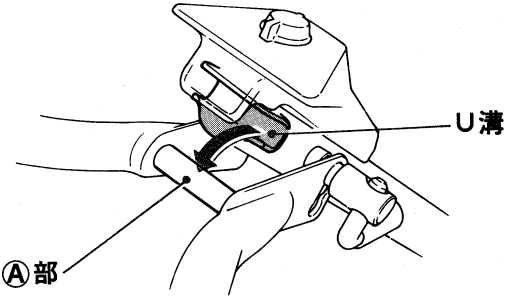
**6 ハンドルの折りたたみかた**

ハンドルが折りたたみでき運搬、格納時大変便利です。

1.ハンドル高さ調整レバーを左に3回転まわしゆるめる。

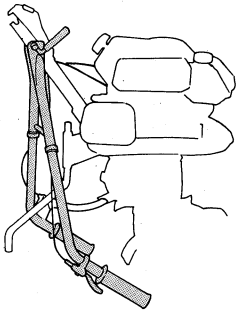



2.ハンドルを手前に引いて、Ⓐ部をU溝から外す。




3.ハンドルを下側に折りたたみ、下図のようにする。

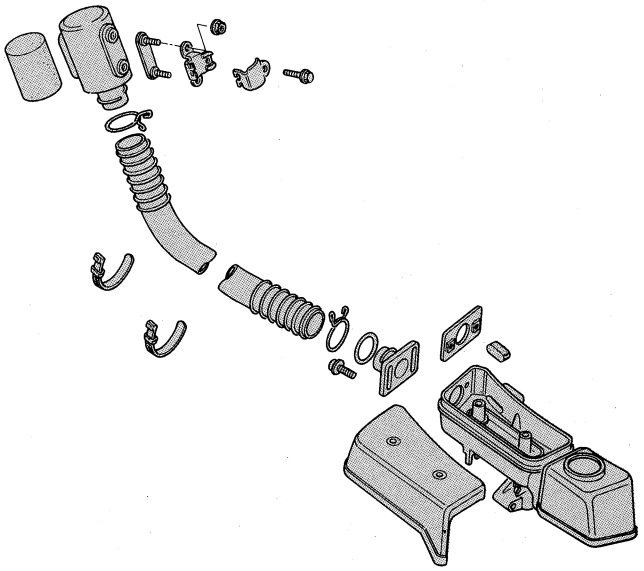
注意 ・ハンドルをスイングした状態では、ハンドルの折りたたみは出来ません。
ハンドルの折りたたみを行なう時はハンドルの位置を中央にしてから行なってください。



# 別　売　部　品

## ●スノーケル空気清浄器

土煙りの立つようなホコリの多い作業に使用します。



# 故障のときは

**むやみに分解しないで、はやめにお買い上げ販売店で点検整備をしてもらうことがティラーを長持ちさせる秘けつです。**

**始動しない時は次の点を確かめましょう。**

- ガソリンはありますか？
- エンジン オイル注入口、口元までありますか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、または布きれで完全にふきとってから行なってください。

プラグを取外し、プラグキャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ（感電を避けるためにプラグキャップ以外には触れないでください。）、エンジンスイッチを〝運転〟の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意 ・この点検は風通しのよい場所で行なってください。

- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

**主クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう。**

- クラッチ ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか？

**～～～～～～～～少し時間をおいて**
**もう一度確めましょう～～～～～～～～**

故障の修理
お買い上げ販売店または最寄りのホンダＳＦへお申しつけ下さい。

# 主　要　諸　元

| | | |
|---|---|---|
| 型　　式 | | F200M |
| 区　　分 | | F200M |
| 機体寸法 | 全　　長(mm) | 1,070 |
| | 全　　幅(mm) | 535(ハンドル幅) |
| | 全　　高(mm) | 1,080 |
| 重　　量(kg) | | 35(ローター付) |
| エンジン | 名　　称 | ホンダG100 |
| | 形　　式 | 空冷4サイクル1気筒立形ガソリン |
| | 総排気量(cc) | 76 |
| | 出力／回転速度(PS/rpm) | 1.4/3,600(最大2.0/4,200) |
| | 使用燃料 | 自動車用無鉛ガソリン |
| | 燃料タンク容量(ℓ) | 0.9 |
| | 点火方式 | 無接点マグネット点火 |
| | 始動方式 | リコイルスターター |
| 主クラッチ方式 | | シュークラッチ式 |
| 変速段数 | | 前進：1段 |
| 安全鑑定適合番号 | | 602018 |

# 保　証　書

**お買い上げいただきました、ホンダ ティラーに万一不具合がおきましたときには、この「保証書」にしたがってつぎのとうり保証いたします。**

**■保証の内容**

お買い上げいただきましたティラーを構成する純正部品に材料上、または製造上の不具合がおきた場合、これを無料修理いたします。(以下無料修理を保証修理といいます。)保証修理は部品の交換あるいは補修により行ないます。また取外した不具合部品はホンダ所有となります。

**■保証期間**

保証修理を受けられる期間は新品をお買上げの日から1か年間とします。

**■保証できない事項**

**●次に示すものに起因すると判定される故障は保証修理をいたしません。**

- ホンダが指定する定期点検整備を実施しなかったこと。
- 保守、取扱いの不備、または間違い。
- ホンダが示す仕様の限度を越える使用（水田等の水のある場所での使用、最高出力等)。
- ホンダが認めていない改造。
- 純正部品、および指定する油脂類（オイル）以外の使用。

**●次に示すものは保証修理いたしません。**

- 時の経過による変化で発生した不具合（塗装面、メッキ面などの自然退色など）
- 一般に品質、機能上影響のない官能的現象（音、振動、オイルのにじみなど）
- 台風、水害など天災による不具合

**●次に示すものの費用は負担いたしません。**

- 消耗品、および油脂類など。
- お買い上げホンダ販売店、ホンダＳＦ以外での修理
- 点検、調整、清掃、および定期点検整備

**■保証の適用**

この保証内容は日本国内で使用されるティラーのみに適用いたします。海外へ持出す場合はその時点で保証が打切りになります。

**■保証修理の受け方**

保証修理をお受けになる場合は、ティラー(保証票貼付確認の上)お買い上げホンダ販売店、または最寄りのホンダＳＦへお持ちいただき、保証修理をお申しつけ下さい。保証票が貼付されていないときは保証修理をお受けいたしかねます。

**ホンダ保証票**

**ご購入　　年　　月　　日**

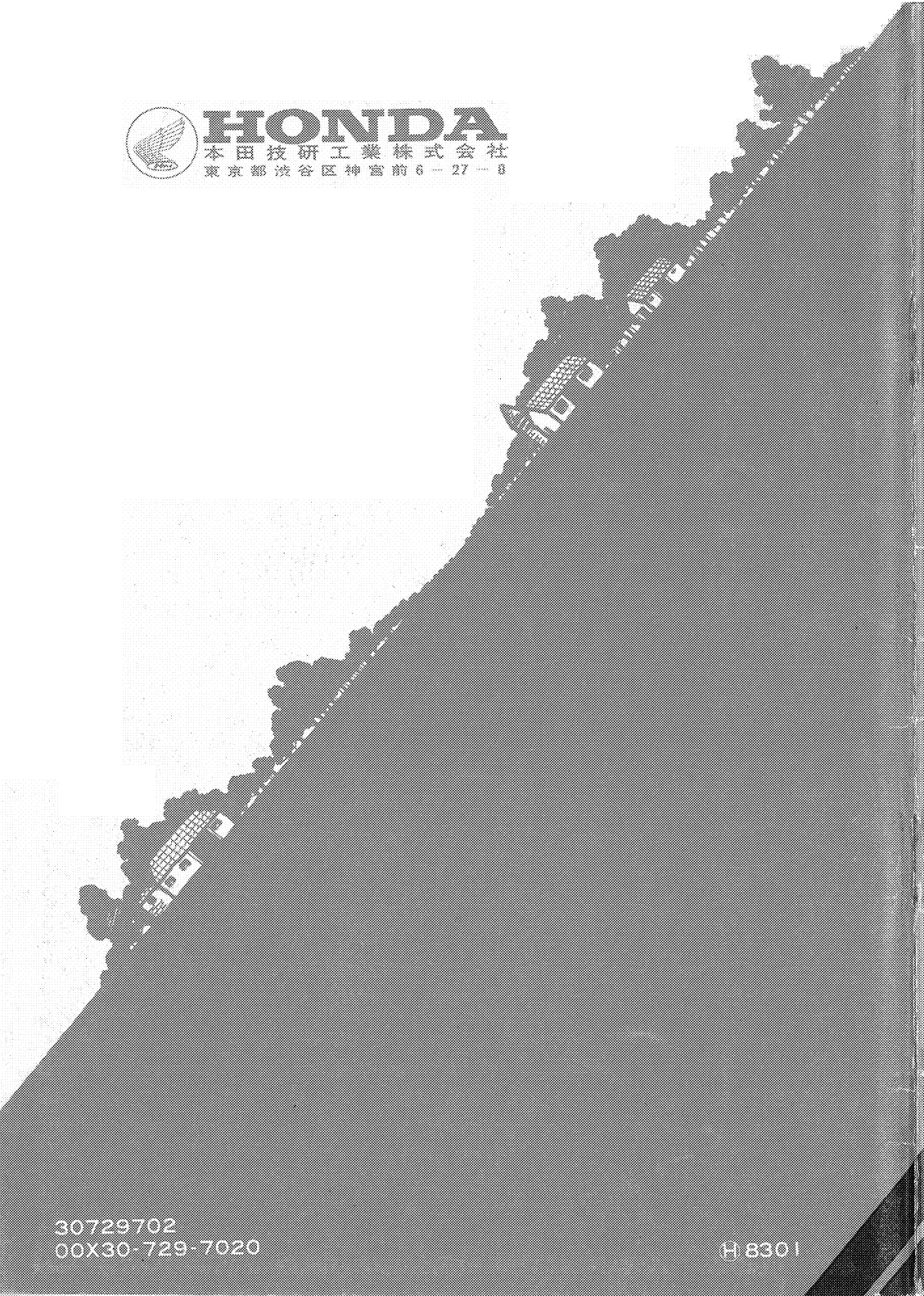
**販売店名**

**HONDA**

**■保証サービスの発効**

この保証内容はお買い上げ販売店が保証票に、「店名」「お買い上げ日」を記入し、ティラーに貼付することにより有効となります。

**本田技研工業株式会社**
**東京都渋谷区神宮前6－27－8**



HONDA
本田技研工業株式会社
東京都渋谷区神宮前6－27－8

30729702
00X30-729-7020

H 830 I